

# 走れ！駐在員。常夏の国のマラソンブーム

バンコック駐在員事務所

新宅 令康

サワディーカップ。今タイが空前のマラソンブームなのはご存知でしょうか。タイ人と言えば何といっても歩くことすら大嫌いで数十メートル先でもバイクタクシーで移動する傾向があり、とても酷暑の中でマラソンを走るなんて信じられないと思っておりました。しかしながら、タイではハーフマラソンやミニマラソンを含めると年間数百のイベントが必ず毎週どこかで開催されており、どの会場も大賑わいです。

このマラソンブーム、実はここ数年に始まった最近の出来事です。タイ人は経済発展に伴ない、中間層が増えたのと同時にファストフードなど食事の欧米化もあり、肥満化が進んでおります。

そこで、お金と時間に余裕ができた中間層を中心に健康や美容への意識が高まってきたことから、マラソンブームにつながってきたようです。

興味を持った私は9月にカンチャナブリーで開催のマラソン大会に参加申込を行いました。ハーフマラソン(21.1 km)とミニマラソン(10.55 km)があったのですが、とりあえず今回はミニマラソンに挑戦することにしました。ちなみに参加費は600バーツ(約2,000円)です。直前の2週間は近所の公園を2~3週(1週2.5 km)走って調整行い、準備万端？で挑みました。



マラソン大会のスタート会場では、場を盛り上げてくれる司会のアナウンスや大音量のリズミカルな音楽に DJ まで加わり、まさにライブイベントのようです。イベントやお祭りをこよなく愛するタイならではの雰囲気です。マラソン大会の独特の緊張感もなく、妙にテンションが上がってきます。

数百人はいると思われる参加者と一斉にスタート。中には顔にペイントをしたり、着ぐるみを着たりしている方もおり、とても和やかな光景です。常夏の国のマラソンなのですが、まだ暗闇の残る午前6時のスタートとあって、妙にサバイ(タイ語で快適の意味)です。アップダウンの厳しいコースだったのですが、ついに最後までサバイで若干の余力を残したままゴールすることができました。余談ですが、今回参加したマラソンと比較して、普段行っているムエタイジムでのトレーニングがどれだけ厳しいのか改めて痛感させられました。

完走後は参加賞のメダルが授与され、なかなか豪華な食べ物や飲み物が振る舞われます。そしてこれだけ充実したイベントが終わってもまだ午前中というのが素晴らしいと感じました。次回はもう少し練習を重ねて、ハーフマラソンにチャレンジしてみたいと思います。



完走者に授与されたメダル。  
意外とクオリティ高いです。

映画「戦場にかける橋」の舞台の  
クウェー川鉄橋付近が今回のコース。